

平成29年度 第3回市長タウンミーティング概要

と き：平成29年4月16日(日)
午後2時～3時30分
ところ：南公民館
参加者：101人

○市長あいさつ

(市長より、平成29年度の施策・予算についての説明が行われました。)

○意見交換

質問(女性)

南町でいきいき百歳体操のボランティアサポーターとして活動しています。参加者からも好評で支援の輪を広げたいのですが、会場の確保に苦勞しています。学校の空き教室などを使用させてもらえないでしょうか。

回答(市長)

いきいき百歳体操教室の開催にご尽力いただきありがとうございます。この事業は、サポーターの皆さんのご協力をいただきながら、地域の皆さんが体操を通じて、健康づくりや地域での交流を深めていく大変素晴らしい事業で、現在、市内には、今月立ち上がるものを含めて14の教室があります。市としても、この事業を更に広げていきたいと思っておりますが、そのためには、サポーターの皆さんの支援が必要ですし、お話のとおり、継続的に体操が行える会場の確保が大きな課題となっております。ご提案いただきました学校の一時的余裕教室については、子どもたちが学習などで教室を有効活用していますし、例えば、休日に教室を開放した場合の対応など、学校管理に支障のないような運営が必要となることから、大変難しい状況にありますが、今後、教育委員会と相談していきたいと思っております。

また、一定期間ではありますが、塚越地域の他の介護予防事業で、武南中学校の1階ホールをお借りできるという事例がありましたので、引き続き、会場となり得る場所についての情報収集に努め、サポートしていきたいと思っております。

質問（女性）

これまでの経験を生かして3年前に北町公民館で読み聞かせボランティア養成講座を開きました。今では講座に参加した受講生の皆さんと一緒に地域の保育園や児童館などで読み聞かせの活動を行っていますが、人手が不足しています。読み聞かせは、超高齢社会を踏まえたシニアの健康づくりや、聞き手である子どもたちの心の健康づくりにも有意義です。そこで、市でも読み聞かせボランティアの養成講座を開設するなど、活動の輪や活動の場を広げるサポートをお願いできないでしょうか。

回答（市長）

日ごろから、保育園や児童館など、子どもたちのために活動をしてくださりありがとうございます。読み聞かせや朗読は、脳の活性化や子どもたちの心の健康などによいと聞いていますので、そうしたボランティアの輪を広げる努力はしていきたいと思います。以前、北町公民館で養成講座を行ったとのことですが、市内には7つの公民館がありますので、担当には、皆さんの相談に乗るよう伝えておきます。また、市が県のモデル事業として取り組んでいるアクティブシニアの社会参加支援事業では、何かを始めたい人と仲間を求めている団体との出会いの場となる「見本市」を開催しています。合わせて、ご案内をしたいと思います。

（市民活動推進室から）

元気なシニアの皆さんの社会参加のきっかけとなる「見本市」は7月22日、市民体育館で開催します。この見本市がきっかけで、新たに団体に入られた方もいますので、ぜひ、ご参加ください。

質問（男性）

町会では、班長や組長、ごみ当番などを輪番制で分担しています。現在、高齢化が進み、当番ができない方が増えるなど、町会運営に苦慮しておりますが、市の考えをお聞かせください。

また、毎年開催される総合防災演習には、交代で当番となる各地区の町会をはじめ全町会が参加しています。特に、当番以外の町会は演習などの活動が少なく、待機の時間が多くなり負担に感じています。予算のことなども踏まえて、あり方を検討していただけないでしょうか。

回答（市長）

町会の皆さんには、ご苦勞をいただきながら町会活動に取り組まれていることに心から感謝するとともに、地域の連携がまちづくりにとって何よりも重要だということを改めて実感しています。町会運営については、組長・班長やごみ当番など、当番が順次回ることによって、地域の方々が町会との接点を持ち、町会活動に関わる良い機会ともなることから、各町会の現状に即した方法で、地域のつながりを広げていただければと思っています。

また、ごみ当番に関連することですが、蕨のごみを処理する蕨戸田衛生センターの「ごみ処理基本計画」のなかで、自力でごみ集積所にごみを出すことが困難な高齢者等を対象とした、戸別収集を検討課題として掲げていますが、簡単には実現できない状況があります。こうしたことも踏まえ、引き続き、地域の支え合いのなかでご協力をお願いできればと思っています。

総合防災演習については、市全体やライフラインに関連する機関などとの連携を図ることや、高所救出訓練など大規模な訓練をするという側面から大変重要なものと考えています。また、その一方で、それぞれの地域特性に応じた防災体制づくりも重要となることから避難所運営訓練など、個別訓練にも力を注いでいるところです。防災対策の強化に向けては、総合防災演習と個別の実践的な訓練を両立させていくことが重要であると考えていますが、いただいたご意見も踏まえ、今後もより良い総合防災演習のあり方を考えていきたいと思えます。

質問（男性）

南公民館で活動している生涯学習団体に所属しています。近隣市の一部の公民館では、インターネット環境が充実しています。利用団体の活動の幅を広げるためにも、南公民館にWi-Fiを用いたインターネット回線の利用ができる環境を構築していただけないでしょうか。

回答（市長）

公民館等に誰でも使えるインターネット回線やWi-Fi環境が整うことで、生涯学習の推進にプラスとなることは承知していますが、限られた財源の中で事業を推進していることから、公共施設の耐震化を優先的に進めています。

しかしながら、防災という観点からは、避難所における避難生活での情報取得のため、Wi-Fi環境の整備の必要性が重要視されており、また、子どもたちのアウトメディアという観点からは、スマートフォンなどの使い過ぎにつな

がるといった課題も上がっております。いただいたご意見を含め、将来的に、様々な角度から検討をしていきたいと思っております。

質問（男性）

地域包括ケアシステムという言葉の意味を教えてください。また、特別養護老人ホームいきいきタウン蕨の看板を目立つようにしていただけないでしょうか。

回答（市長）

地域包括ケアシステムとは、厚生労働省が推進しているもので、高齢者が介護は必要になっても、住み慣れた地域で暮らし続けられるよう市区町村が中心となり、「住まい」「医療」「介護」「生活支援・介護予防」の体制を包括的に整備していこうというものです。

この体制の整備については、蕨市は県からモデル自治体として選定されており、現在、複数の取り組みを行っています。高齢になって介護が必要になった場合でも、地域で支え合い、安心して蕨に住み続けられるような仕組みを引き続き、考えていきたいと思っております。

特別養護老人ホームいきいきタウン蕨については、社会福祉法人ぱるが運営していますので、看板に関するご意見があったことをお伝えしておきます。また、施設内には、特定非営利活動法人障害者の自立を考えるあしたの会の皆さんが運営している喫茶コーナーや、介護に関する相談ができる第二地域包括支援センターが入っています。市においても、地域の皆さんが気軽に利用できる場所として、広報していきたいと思っております。

※ご質問いただきました内容に関して、担当課の確認など、その場でお答えできなかった内容を、加筆・修正して公開しています。